



## 口を動かし、笑顔の1年に!!

新年あけましておめでとうございます。毎年、休むことなく新しい年を迎えるが、加齢するごとに1年の経過が早く感じられる。昨年はコロナ禍の中、多くの方々から提案をいただき、今年により良い町づくりの実現に向かって「チーム役場」挙げて全力で挑戦する決意である。

岐阜県中津川市から移転した三千櫻酒造が、大雪山伏流水と東川産酒米で製造したお酒が新年早々に誕生する。水とお米の良さの象徴としてのお酒だが、お土産としては「水、米、酒」とも持ち運ぶのには実に重い。「重い方が思い出」はある議長の言葉で、実感できる。お酒と言えば、町民有志によるクラブトビールづくりへの挑戦、ブドウ栽培からワイン醸造を志すご夫妻、JETRO（日本貿易振興機構）を通じて海外の有名な小さなGINとウイスキーなどの醸造所が東川町へ移転進出したいなど、お酒の醸造が話題となっている。「えっ、本当かよ!」と驚

く人もいて、一気に「写真とアルコールの町」になりますね、との声もある。私は下戸に近いが、「仲間と同じ空間で、飲んで、語って時間を過ごす」とは最も幸せなことでもある。昨年はコロナ禍で「仲間、空間、時間」（以下「3つの間」）の共有はマイナスイメージとなっているが、本町のような適疎なところでの「3つの間」の共有は三密には当たらないのでは……。

これら、お酒に共通しているのは水資源の素晴らしさにある。何気なく水と暮らしている私たちであるが、改めて「水」資源の素晴らしさや大切さが伝わってくる。コロナ禍で地域や国民、そして世界の人々を共に笑顔にしてくれるのは、「3つの間」の共有をどのような形で展開するかではないだろうか。「食べて、飲んで、語る」という口の開放が一番。前向きに安心して口を開き、笑顔で進みたいものである。コロナ終息まではマスクは離せないが…。

### この本を盗む者は(一般書) 深緑野分/著 KADOKAWA/刊



書物の蒐集家を曾祖父に持つが、本が好きではない高校生の深冬。ある日、父が管理人を務める巨大な書庫「御倉館」から蔵書が盗まれ、本の呪いに侵食された町は物語の世界に姿を変えていく。泥棒を捕まえない限り世界が元に戻らないと知った深冬は、私立探偵が拳銃を手に陰謀に挑む話や、銀色の巨大な獣を巡る話など、さまざまな本の世界を冒険していく。

### プーと大人になった僕(DVD) 販売元:ウォルトディズニージャパン



かつて「100歳になっても、きみのことは絶対に忘れない」と約束を交わしてプーと別れた少年クリストファー・ロビン。月日が流れ大人になった彼は、愛する妻や娘とロンドンで暮らしながら、旅行カバン会社で多忙な日々を送っていた。しかし、忙しすぎるゆえに家族との約束も守ることができず、思い悩んでいた彼の前に、かつての親友プーが現れ……。(104分)

## 貸し出し図書 ビデオ紹介

せんとぴゅあII ほんの森

【貸し出し】  
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)  
DVDは一人2本まで(8日間)  
★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

### とちもち もちもち おいしいね(紙芝居) 土田 義晴/脚本・絵 童心社/刊



くまのクンクンとりすのグリが川へ行くとき、おばあちゃんが水に「とちのみ」を浸けていました。「おいしいものになる」と聞いたふたりもお手伝いをして、とちもちを作ること。とちのみは、殻をむいた実を一週間水にさらしてあくぬきをしないと食べられません。お米をむいたら、とちのみをいれてペタンペタン。おもちをついたら、あんこをいれてできあがりです。